携帯電話アダプタ 公衆電話オプション

補 足 説 明 書

本説明書では、携帯電話アダプタの公衆電話オプションの機能について説明します。。

セットアップ・通常の使用方法・各種設定などについては以下の取扱説明書を参照してください。
「携帯電話アダプタ(Bluetooth 接続)　取扱説明書」
「携帯電話アダプタ(FOMA ケーブル接続)　取扱説明書」
(「携帯電話アダプタ(Bluetooth/FOMA 両対応)　補足説明書」)

目次

1　セットアップ 2
1.1　公衆電話の接続 2

2　機能説明 3
2.1　パスワード 3
2.2　初期値の相違 3
2.3　電源断（停電など）からの復帰について 3

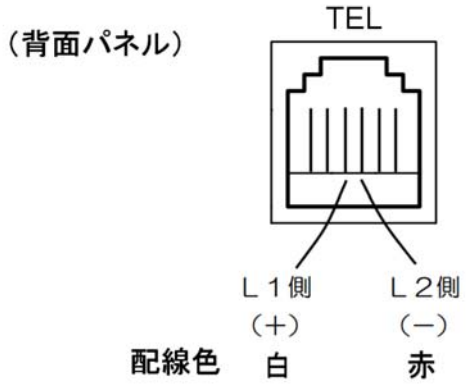
3　モード設定（公衆電話特有機能） 4
3.1　公衆電話機能 4
3.2　課金時金時間設定 4
3.3　極性設定 4
3.4　ナンバーディスプレイ 5
3.5　Bluetooth の接続・切断 5
3.6　パスワード 5
3.7　市外局番自動付加 5
3.8　発信制限（既定番号・無料通話） 6
3.9　発信制限（既定番号・有料通話） 6
3.10　発信制限・課金設定（個別番号） 7

1　セットアップ

1.1　公衆電話の接続

公衆電話を、本アダプタ背面パネルのモジュラージャックに接続してください。
公衆電話の配線には極性がありますので、下図のように接続してください。
（電話機の端子が Y 端子などモジュラープラグでない場合、市販の変換アダプタ等を使用して、下図のようになるように配線して下さい。）

配線の都合で逆の接続になる場合には、本アダプタの極性設定（3.3 節）を使用して下さい。



1.2　課金時間の設定

10 円で通話できる時間を設定して下さい。詳細は 3.2 節を参照して下さい。
設定した時間[秒]ごとに本アダプタから課金パルスが出力され、公衆電話で 10 円が課金されます。

1.3　発信の許可・禁止など

特定の番号で始まる電話番号へ発信（有料・無料）の許可／禁止／異なる課金時間（10 円で通話できる時間)を設定できます。

・あらかじめ設定してある電話番号に対する無料通話を許可するには 3.8 節を参照してください。
ここに列挙してある電話番号以外にも無料通話を設定したい場合は 3.10 節に従い設定して下さい。
ここで許可された番号への発信の際には、課金パルスを出力しません。
無料通話をするには公衆電話も設定した番号への無料通話に対応している必要があります。

・あらかじめ設定してある電話番号に対する有料通話を禁止するには 3.9 節を参照してください。
ここに設定されている番号は、各携帯電話会社の音声通話定額プランの対象外となる可能性のある電話番号です。
そのような電話番号に個別に割り増し料金を設定したい場合には 3.9 節に従い「禁止」に設定して、3.10 節に従い個別番号に課金時間を設定して下さい。

・その他、個別の番号を指定して無料通話の許可・有料通話の許可／禁止／異なる課金時間を設定するには 3.10 節を参照してください。

2　機能説明

2.1　パスワード

公衆電話は不特定多数の人が使用するため、パスワードを設定することができます。
パスワードが設定されている場合、以下の動作に制限をかけることができます。
１）モード設定を行うためにはパスワードの入力が必要になります。
２）Bluetooth の接続・切断にはパスワードの入力が必要になります。
パスワードの設定・解除については 3.6 節を参照して下さい。

パスワード設定時の Bluetooth の接続・切断
パスワードが設定されている場合、受話器を上げて番号「１」～「５」入力による接続および番号「９」入力による切断は動作しません。

以下の手順にて接続・切断を行って下さい。
１）受話器を上げて「００００」を入力してください。
２）「設定モードです。４桁の番号を入力して下さい」のアナウンスに従い、４桁のパスワードを入力してください。
３）アナウンスに従い「３２１」を入力してください。
４）接続する機器番号「１」から「５」または切断「９」を入力してください。詳細は「携帯電話アダプタ(Bluetooth 接続)　取扱説明書」を参照してください。

2.2　初期値の相違

公衆電話仕様(Blueooth 接続)では、以下の機能の初期値が標準仕様と異なります。
この設定は、１台のみの Blueooth 携帯電話を使用を想定し、何らかの理由で切断が切れても、自動的に再接続するためのものです。
・オフフック時 Blueooth 自動接続　　初期値：オフ（0）
・Blueooth 自動接続　　初期値：オン（1）

2.3　電源断（停電など）からの復帰

FOMA ケーブル接続の携帯電話アダプタでは、AC 電源が切れて、さらに FOMA 携帯電話のバッテリーが無くなった場合でも、電源が復帰すると充電が開始され、電源も自動的にオンになり、通話可能な状態になります。
（バッテリーが完全に放電している場合、充電開始・電源自動オンまで数分かかる場合があります)。

3　モード設定（公衆電話特有機能）

本アダプタには、各種設定項目があり、以下の手順で設定が可能です。
各設定項目は、電源が切れても保存されます。
以下は公衆電話特有機能の説明です。基本機能については各説明書を参照してください。

1）設定を開始するには、受話器を上げて「００００」を入力します。(受話器を上げた時の発信音は「ツー」または「ツー・ツー...」のどちらでも構いません)。
＊）パスワードが設定されている場合、「設定モードです。４桁の番号を入力してください」とアナウンスが流れるので、４桁のパスワードを入力してください。
2）「設定モードです。３桁の機能番号を入力して下さい」とアナウンスが流れるので、以下の通り、アナウンスに従って入力して下さい。アナウンスの途中でも入力可能です。
3）現在の設定値が読み上げられます。
4）アナウンスに従い３桁の機能番号を入力します。
5）アナウンスに従い、以下の表を参考に、指定の桁数の設定値を入力します。
6）設定に成功すると「設定しました」とアナウンスが流れます。
7）アナウンスに従い、再び２）から繰り返すか、設定が完了したら受話器を置いて下さい。
＊）途中で設定を中断するには受話器を置いて下さい。

3.1　公衆電話機能

機能番号	設定値	初期値	
811	0,1	1	公衆電話機能（課金パルス発生）の有効・無効を設定します。 0:無効，1:有効

3.2　課金時金時間設定

機能番号	設定値	初期値	
812	005～ 999	060	10 円ごとに通話できる時間を[秒]で設定します。 桁数が少ない場合は頭に 0 を付けて必ず 3 桁の値を入力してください。 4 秒(004)以下には設定できません。 正常に設定されているか、念のために硬貨を投入して実際の課金時間をテストすることをお勧めします。

3.3　極性設定

機能番号	設定値	初期値	
871	0,1	0	公衆電話の配線には極性があります。 本説明書の「1.1 公衆電話の接続」の記述の通りに配線することをお勧めしますが、配線側の都合で極性が逆になる場合には、本設定にて極性を反転させることができます。 0:極性反転しない，1:極性反転する

3.4　ナンバーディスプレイ

機能番号	設定値	初期値	
121	0,1	0	公衆電話オプションの携帯電話アダプタでは、ナンバーディスプレイ機能は初期状態で「無効」に設定されています。 必要に応じて「有効」に設定して下さい。 0:無効 1:有効

3.5　Bluetooth の接続・切断

機能番号	設定値	初期値	
161	1～5 9	無し	Bluetooth の接続、切断を行います。 各番号と動作については「携帯電話アダプタ(Bluetooth 接続)取扱説明書」を参照してください。 設定値 1,2,3,4,5 は各機器番号への Blueooth のペアリングと接続です。 設定値 9 は Blueooth の切断です。

3.6　パスワード

機能番号	設定値	初期値	
199	0000～ 9999	0000	モード設定に入るためのパスワードを 4 桁の数字で設定します。 不特定多数の人が使用する電話機で、不必要なモード設定を防ぐために使用します。 パスワードを設定すると、受話器を上げて「0000」を入力してモード設定に入る際、「4 桁の番号を入力してください」とパスワード入力が促されます。正しいパスワードを入力しないと、モード設定に進めません。 パスワードは忘れないようにご注意下さい。一度設定した後、再度機能番号を入力し、設定値を確認することをお勧めします。 設定値が 0000 のときにはパスワード非設定となります。

3.7　市外局番自動付加

機能番号	設定値	初期値	
719	7 桁 まで	オフ	市外局番の無い電話番号をダイヤルした際、自動的に市外局番を付けて発信します。電話機を設置する地域の市外局番を設定して下さい。 市外局番を付加するのは、1～9 で始まる 5 桁以上の電話番号への発信の場合です。 「0000」を設定すると本機能はオフになります。

3.8　発信制限（既定番号・無料通話）

機能番号	設定値	初期値	
711	0～9	9	特定の電話番号への無料通話を許可・禁止する機能です。 下表において、番号 N と本機能の設定値を比較して、N≦設定値で始まる番号には無料発信することができ、そうでない番号には発信できません。例えば設定値が 2 のときは、110,119,118 番には発信できますが、113,0120,0800 番には発信できません。 本機能で対応できない番号は 3.10 節の個別番号の設定にて許可・禁止を行ってください。 番号 N　発信番号 1　110 (警察) 1　119 (消防) 2　118 (海上保安庁) 3　113 (故障受付) 4　0120 (フリーダイヤル) 5　0800 (フリーダイヤル)

3.9　発信制限（既定番号・有料通話）

機能番号	設定値	初期値	
712	0～9	2	電話番号の先頭が特定のパターンに該当する場合に発信を許可・禁止する機能です。 下表において、番号 N と本機能の設定値を比較して、N≦設定値で始まる番号には発信することができ、そうでない番号には発信しません。 例えば設定値が 1 のときは、171 番には発信できますが、それ以降の#で始まる番号，0180 番，0570 番などには発信できません。 許可された番号へは、3.2 節で設定した課金時間が適用されます。本機能では補いきれない場合や、個別に課金時間を設定したい場合は 3.10 節の個別番号の設定にて許可・禁止・課金設定を行ってください。 番号 N　発信番号(x は任意の番号を表します)。 1　171 (災害用伝言ダイヤル) 2　#7119 (各地 救急相談センター・救急安心センター) 2　#9110 (各地 警察総合相談センター) 3　#xxxx 4　1xx 5　0180 (呼数集計、テレドーム) 6　0570 (全国統一番号、ナビダイヤル) 7　104 (番号案内) 8　00xx 9　0xx0

3.10 発信制限・課金設定（個別番号）

<table>
<tr><th>機能番号</th><th>設定値</th><th>初期値</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="6">721,
722,
723,
724,
725,
726,
727,
728,
729,
720</td><td>電話番号
9 桁まで</td><td>0000</td><td rowspan="6">発信時の電話番号の先頭部分を指定して、発信許可・発信禁止・公衆電話の課金時間を指定できます。
3.8 節・3.9 節の発信制限（個別設定）で設定しきれない番号に対して発信の許可・禁止および課金時間の設定ができます。
本機能の設定は発信制限(規定番号　無料通話・有料通話)の設定より優先されます。

１）設定モードで 721～720 の機能番号を入力してください。
２）現在の設定値の確認と「番号を入力してください」とアナウンスが流れるので、指定したい電話番号を入力してください。1～9 桁の範囲で入力できます。
３）「３桁の番号を入力してください」とアナウンスが流れるので数字を入力してください。それぞれの意味は以下の通りです。
000:発信禁止
001:発信許可　機能番号 812 番に設定した課金時間が適用されます。
005～998: 10 円ごとに通話できる時間（5 秒～998 秒）を設定します。812 番に設定した時間より優先されます。
999:無料通話　指定した番号へは無料通話になります。
※無料通話をするには公衆電話も設定した番号への無料通話に対応している必要があります。公衆電話の取扱説明書を参照してください。

例１）設定番号:0123，３桁の番号:000
0123 で始まる電話番号に発信出来なくなります。
例２）設定番号:0180，３桁の番号:015
0180 で始まる電話番号には 15 秒につき 10 円課金されます。

一度設定した番号を消去するには電話番号「0000」を「000:禁止」に設定して下さい。</td></tr>
<tr><td colspan="2">に続き</td></tr>
<tr><td>発信禁止
000</td><td rowspan="4">000</td></tr>
<tr><td>発信許可
001</td></tr>
<tr><td>課金時間
設定
005～
998</td></tr>
<tr><td>無料通話
999</td></tr>
</table>

2015 年 08 月　TTRMKR

ver.PUB1.00